

The Complete Guide to Butterflies of Hokkaido, Japan

完本 北海道蝶類図鑑

永盛俊行・永盛拓行・芝田 翼・黒田 哲・石黒 誠 [著]

B5判・上製・408頁 定価[本体 13,000円+税]

ISBN978-4-8329-1401-8 C3045

2016年4月27日発売

**標本,卵から成虫までの
全生活史,
さらに食草・食樹を
カラーで紹介。**

- ◇成虫全種について野外での生態写真を掲載。
- ◇卵から蛹までの幼生期の生活史を野外写真で紹介。
- ◇全種の♂♀表裏の標本写真を収録。
- ◇約80種の主たる食草(樹)の写真を収録。
- ◇解説は、野外での行動を記述。何が未解明かも明記。

■お問合せ

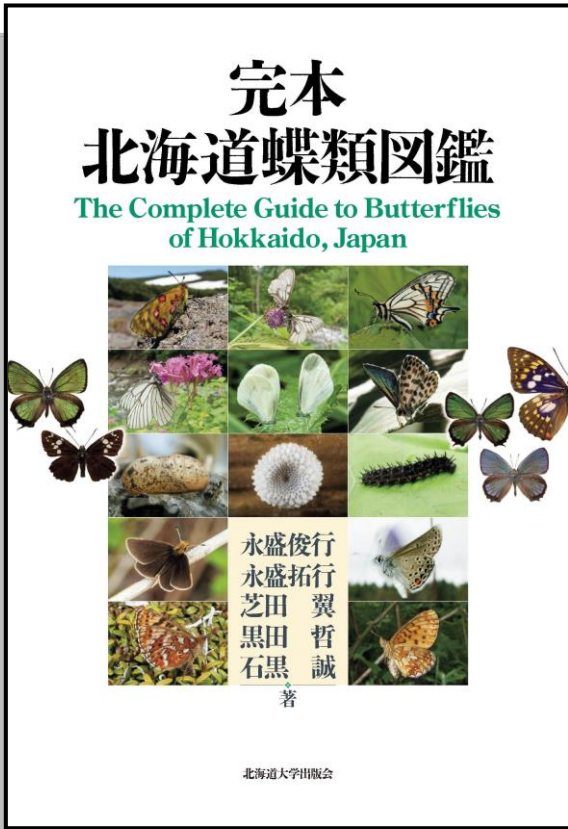
北海道大学出版会

<http://www.hup.gr.jp>

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目

TEL.011-747-2308/FAX.011-736-8605

E-mail.hupress_8@hup.gr.jp



[ご注文]: さくま書店 までご注文下さい。 Tel. 03-3472-4535 (月~土:10:00~20:00) FAX.03-3450-3001
Mail.samagoro5656@gmail.com HP.<http://sakumashoten.com>

注文書	『完本 北海道蝶類図鑑』を [] 冊 申し込みます (月 日)		番線印
	ご芳名		
	ご住所 〒		
	TEL	FAX	



本書の特徴

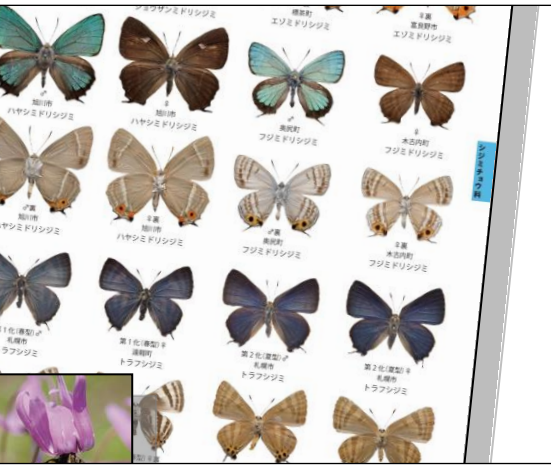
- ◇標本図版・各種解説図版・食草図版・生態観察のすずめの4部から構成。
- ◇北海道に土着している 115 種と、土着とはいえないが毎年確実に見られるヒメアカタテハを含めて計 116 種を中心に紹介。
- ◇各科と種の配列は『猪又敏男ほか(2013)「日本産蝶類和名学名便覧」』に従った。
- ◇和名は研究者に最も親しまれているものにした。
- ◇学名については、様々な見解を考慮の上、亜種名・命名者・命名年まで記した。北海道の個体群が複数の亜種に分割できると考えたものは、分布地域とともに記述した。

【食草図版について】

- 標本図版、種解説図版で紹介した 116 種の食餌植物を、草本・木本について科の分類ごとに自然状態がわかるように、野外で撮影した写真で紹介。
- 卵や幼虫の静止位置、食痕もわかるように図示。
- 幼虫が写しこまれたものは、矢印で示した。
- 卵や幼虫を探すことを考慮して、花や若葉・葉を中心に、食樹などでは樹皮や冬芽の特徴も示した。
- 近似種との同定のポイントを簡単に示した。

【標本図版について】

- 116種の♂♀表裏をすべて原寸で収録。大型種は翅の半分だけ示したのものもある。
- 全標本の産地を市町村名で示した。
- 第1化,第2化で形態が変わる蝶(いわゆる春型・夏型,高温期型・低温期型)も収録。
- 亜種と区別されるような重要な地理的変異や特徴的な個体変異(突然変異)も収録。
- 同定に注意の要する近似種との区別点を詳しく示した。種によっては交尾器や発香鱗など翅の斑紋以外の区別点も図示。
- 天然記念物で採集禁止になっている種は、法規制前の採集標本を使用。



ヒメギフチョウ
Lycaeris paezilis yonensis Hochuli, 1918

【分布・生息地】石狩低地帯以南。確実な北限は宗谷管内札村、東限は釧路市知床半島、南限は新ひだか町野村、西限は樺尾町摩多から石狩管内にかけての地域である。釧路市と釧路市の報告があるが、確信的と考える。留萌、上川、北見市より北側のオホーツク管内では多産地も多い。その一方、はつづ町、栗山町、由仁町、早稲町、旧新庄、門別、三石などは近年の記録がない。樺尾の少ない亜種。日高管内の産地では南岳が記録されているところが多い。自然度が著しく高い。低山地から山地の乾燥した開けた場所に発生が多い。

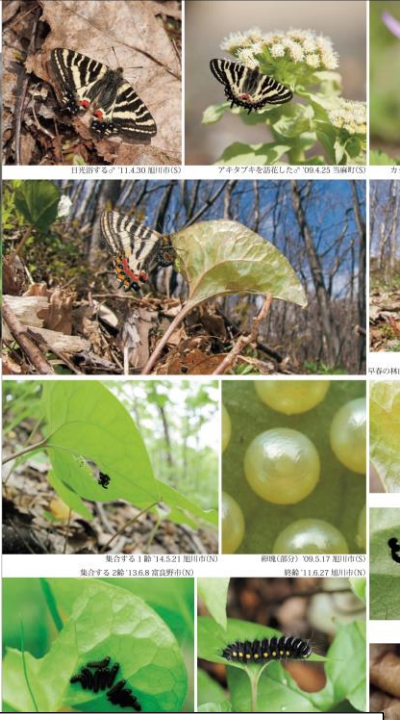
【周年経過】年1回春期のみ発生。カタクリやリュウキンカが咲き揃うころに出現し、石狩市厚田や浜益や川市内などでは4月下旬。留萌管内や道北では5月上旬から中旬。釧路山中管理地帯の長谷などでは6月以降から発生する。春の羽が1年1回は、多くの地域で一斉に発生することもある。初夏に蛹化。そのまま越冬する。

【食草】マムスズクサ科のオウエンゾウシヤ。【成虫】羽化後直後の羽は二次林を飛び回り、最も早い開花であるアキタギからオウエンゾウシヤ、カタクリ、ミソソバなど早春の花で吸蜜する。活動範囲は約1km、10分程度。1日あたり約1.5km、10分程度。アキタギを訪花した。08:42 5月10日

【生活史】卵は直径1mm強で真珠光沢を持つ。産卵直後は黄白色で1日ほどに黒色に変わる。孵化直前には黒くなり、約2週間が孵化する。孵化は卵の上部から少しずつ北に移動する。孵化後すぐに産卵の裏から餌食を始め、約10秒間に1個ぐらいのペースで産み、5~20個程度の、間隔のあいた平面的な卵塊をつくる。

【生活史】卵は直径1mm強で真珠光沢を持つ。産卵直後は黄白色で1日ほどに黒色に変わる。孵化直前には黒くなり、約2週間が孵化する。孵化は卵の上部から少しずつ北に移動する。孵化後すぐに産卵の裏から餌食を始め、約10秒間に1個ぐらいのペースで産み、5~20個程度の、間隔のあいた平面的な卵塊をつくる。

【生活史】卵は直径1mm強で真珠光沢を持つ。産卵直後は黄白色で1日ほどに黒色に変わる。孵化直前には黒くなり、約2週間が孵化する。孵化は卵の上部から少しずつ北に移動する。孵化後すぐに産卵の裏から餌食を始め、約10秒間に1個ぐらいのペースで産み、5~20個程度の、間隔のあいた平面的な卵塊をつくる。



【標本種の解説について】

- 成虫は野外での行動を解説。訪花植物は特徴的なものに留めた。配偶行動、産卵行動についてはできるだけ詳しく解説。
- 生活史は卵、幼生期、蛹の各ステージの特徴を記載。幼生期については野外での行動観察を中心に、不明なところは飼育での観察で補完。調査が進むことを期待し、未解明な点を積極的に紹介。
- 周年経過は、成虫の発生時期、化性、越冬態について解説。周年経過の一覧表を「生態観察のすずめ」に掲載。
- 食餌植物は確実に記録したものを中心に書き、他の報告種も紹介。
- 分布・生息地は、道内の分布の解説と、その種の生息環境を紹介。

【種解説図版について】

- 写真は野外で撮影した生態写真を基本に構成。生息環境が写しこまれたものを左ページメイン写真とし、右ページの上段に成虫の行動をとらえたもの、下段に卵から蛹までの各ステージの写真を紹介。全撮影年月日と撮影地を記載。
- 分布図は、文献記録や執筆者たちの未発表記録などに基づき作成。

著者:永盛俊行・永盛拓行・芝田 翼・黒田 哲・石黒 誠

永盛俊行:道立高校教頭退職後フリー。主に生態解説と写真を担当
 永盛拓行:札幌市立高校教諭退職後フリー。主に生態解説と写真を担当
 芝田 翼:環境調査業(鳥・昆虫など)。主に生態写真を担当
 黒田 哲:環境調査業(昆虫)。主に分布図,分布解説,周年経過を担当
 石黒 誠:写真家。主に食草と標本の撮影を担当